

研修・相談の進め方

訪問支援の中で、園の課題について保育者と語り合ったり、園内研修の協議に参加したりする機会があります。ここでは協議の中で近年よく活用されている技法としてラベルワークを紹介します。進行役のファシリテーターは、付箋や模造紙、ホワイトボードなどを使い、それぞれの保育者の視点や意見を整理することが大切です。

～ラベルワークの例～

ステップ① 協議のテーマ設定

- ◆事前に園から相談のあったテーマや当日の訪問から見えてきた課題などを基に、協議の視点となるテーマを設定し、共通理解を図ります。

(テーマ例)「子供主体の保育を実現するために」

子供は楽しそうに遊んでいたけれど、これが主体的な遊びと考えればよいでしょうか？



では、今日の保育で担任が気になっている場面は、どこでしょうか？
その〇〇の場面の子供たちの様子を思い出して話し合しましょう。

ステップ② 安心の場づくり

- ◆参加者と以下のようなポイントを共有します。

安心して発言できる場づくりのポイント

- ◎受け止める ◎よく聞く
- ◎よいところを探す ◎否定しない

Point

当日の写真や動画等を持ち寄りながら協議をするのも効果的です。



子供たちはどのように遊んでいたのでしょうか？
(例えば) 砂場の山つくりの「環境の構成」「保育者の援助」で気付いたことを自由に話し合い、その後に付箋に書いていきましょう。

ステップ③ ブレインストーミング

- ◆担任が気になっていた場面、例えば「砂場の場面を見て、感じたこと」を自由に話し合います。ためらわず、いろいろな意見を自由にらせる雰囲気づくりが重要です。

Point

付箋に書き出すことにより、仲間の意見が可視化され分かりやすくなります。集まった付箋を生かしながら、次は議論を焦点化していきます。

～誰もが発言しやすい雰囲気～

ステップ④ 意見の可視化

- ◆参加者の意見が概ね出たところを見計らって、「子供が主体的に遊んでいた姿」が見られた場面と、その「環境の構成」や「保育者の援助」の3つの視点について考えられることを、3色の付箋に書き分けていきます。
- ◆出てきた付箋をホワイトボードや机の中央に置いた模造紙等に貼っていきます。

ステップ⑤ 関係性の構造化

- ◆共通する内容の付箋や関連がありそうな内容の付箋を近くにまとめて整理します。子供の姿と環境の構成や保育者の援助との関係性など、全体の構造に気付けるように、様々な意見を受け止めます。
- ◆話し合いながら出てきた意見や新たな気づきをどんどんペンで書き加えていきます。

ステップ⑥ 明日の保育へのヒント

- ◆対話の中で生まれてきた視点や新たな疑問を基に、子供の姿を再度振り返ります。
- ◆子供の主体的な活動を支える環境の構成や、保育者の関わりについて整理し、明日の保育へとつなぎます。

ステップ④から⑤の例

ねらい：友達と一緒に大きな砂山にトンネルを作って楽しむ。
(4歳児 11月)

子供たちは山を作っては壊すことが楽しいみたい。

保育者は「アレーッ！」と目を大きくして困った表情でしたが、なぜ？(保育者の援助の意図)

保育者に「アレー」と言われてもやめずに楽しそうだった。(子供の興味と保育者の援助とのズレへの気づき)

保育者は、山を固くしてトンネルにすると期待してシャベルと水を用意してみたい。(環境の構成への気づき)



保育者の言葉掛けと子供の姿の関係に気が付きましたね。

子供の主体的な姿と、環境の構成や援助の在り方について、どのようにすればよいか、考えてみましょうか。

ねらいは「…トンネルを作って楽しむ」だけれど、まずは、「作っては壊す」体験も大切だと思う。(子供の姿と発達の見通し)

子供たちと一緒にまぜ壊して遊んでみたらどうかな。(援助)

明日は、大きなスコップを砂場に置いてみようかな。(環境の構成)



明日の保育へのヒントが見つかったようですね。

仲間と共に保育の質向上につなげる喜びを

～訪問支援を受けた園や保育者から、
こんな声が寄せられています～

担任から

製作棚の素材の置き方を考えるヒントをもらえました。置き方を工夫してみたら、子供たちはイメージに合わせて選んで使うようになりました。

園長から

保育者の意図を受け止めながら、指導案の書き方を具体的に教えてもらいました。保育者自身が「学びたい」と思えたことがうれしいです。

言葉や表情だけでなく、話している相手との関係など、子供の内面を読み取る視点をもって見ると、前と違った見方もできるようになってきました！

職員同士が連携して進めることの大切さに気付かせてもらい、組織的に動くためのヒントをもらえました。働き方改革にもつながりそうです。

～幼児教育アドバイザー自身からも
こんな声がありました～



最初の訪問時は緊張と不安でいっぱいでしたが、訪問して一緒に保育を考えることで、保育の喜びを保育者と共感させてもらいました。自分の考え方や見方が広がり、自分の人間性が豊かになっている気がします。

保育の内容・方法は、100園あれば100通りあると思います。私は保育現場をもつ幼児教育アドバイザーですが、自分の園にも還元できることがあり、多くの学びもあります。



共に歩む幼児教育センター

～幼児教育センターは、園の要請に応え、
魅力ある訪問支援ができる体制の充実を目指します！～

幼児教育センターでは…

幼児教育センターでは、各園に新しい風を吹かせることができるよう、幼児教育アドバイザーと共に幼児教育の振興・充実に向けて取り組んでいます。

研修

- 幼児教育に関わる教職員の資質能力の向上を図る研修
- 幼児教育アドバイザーの育成研修

支援

- 幼児教育アドバイザーの派遣（保育内容・方法、園内研修、支援が必要な幼児に関するサポート等）
- 幼児教育に関する相談業務

調査研究

- 幼児教育の内容・指導方法等に関する調査研究

情報提供

- 幼児教育に関する情報発信
- 講演会・講座等の広報
- 関係機関とのネットワークづくり

保育現場の要請や課題を捉える仕組み、研修体制を工夫しています。

また、幼児教育アドバイザー同士の交流の機会を設け、支援の方法などを共有したり協議したりできるようにして、学び合い磨き合っている姿を支えています。

コラム

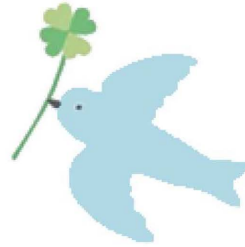
～風～

風のことをあれこれ考えていたら、“Who has seen the wind? Neither I nor you.”という言葉が口を突いて出てきました。確か、中学校の英語の授業で習った詩です。この続きはどのような内容だったかと調べてみると、クリスティーナ・ロセッティ（1830-1894）というイギリスの詩人の作品で、この後は、“But when the leaves hang trembling / The wind is passing thro.”と続いていました。風は、誰も見ていないけれど、木の葉をふるわせて通り抜けてゆくとは、何とも素敵な詩です。

この詩は、西條八十氏が訳した童謡として戦後の教科書にも載っていたようです。

風の名前は、2000種類以上あるそうです。例えば、光風（こうふう）：晴れた春の日に吹く爽やかな風。谷風（こくふう）：春先に吹き、万物を成長させる東風。薫風（くんふう）：初夏、若葉の香りを運ぶ風。野分（のわき）：秋、野の草を分けながら吹きすさぶ風。飄風（ひょうふう）：急に起こる激しい風など様々です。

皆さんは、どんな風になりたいですか？



2023 年度文部科学省委託幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業
教育課題に関する調査研究「幼児教育アドバイザーの役割と研修の在り方」

本リーフレットは、文部科学省の幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業（教育課題に関する調査研究）の委託業務として全国幼児教育研究協会が実施した成果を取りまとめたものです。したがって、本リーフレットの複製、転載、引用には文部科学省の承諾が必要です。

公益社団法人 全国幼児教育研究協会

TEL : 03-3239-8066 E-mail:admin@zenyoken.org